

次の文章Ⅰは清少納言の随筆『枕草子』の冒頭であり、

文章Ⅱは文章Ⅰに触れながら『枕草子』について解説したものです。
これを読んで、問1～問4に答えなさい。

Ⅰ

春は曙。^Aやうやう白くなりゆく山ぎは、^Bすこしあかりて、
紫だちたる雲のほそくたなびきたる。^E

Ⅱ

『源氏物語』の登場人物がよく「泣く」のに対して、『枕草子』の人物はよく笑う。使用度数は、数をかぞえて見ればすぐわかることで、「泣く」に対して「笑ふ」が十倍を越す優位を占める。(中略)

『枕草子』の好んだ「笑ふ」が、必ず仲間を伴うものであることは、この際注意しておいてよい。ひとり笑いという、傍には気味の悪い笑いも世にはあるが、『枕草子』における笑いは、そのような無気味なものではなく、すべて仲間と顔を見合わせての笑いである。『源氏物語』は「あはれ」の文学、『枕草子』は「をかし」の文学、と評されて来たが、それは言い換えれば、「ひとりの文学」と「みんなの文学」でもあるであろう。「あはれ」は一つのことと感じて、そこから思いが他へひろがり、一段深々と感じる時の、持続的な情緒である。「をかし」の陽に対して^a、と言うことと、持続的な情緒、と言うことは同じことを指すものである。だから「あはれ」に対して陽と評される「をかし」は、非持続的な

感情だと評してよいはずである。笑うことで解放されるような感情を基調とする文学は、しみりと、余韻となって漂うものを見つづけようとするような作品ではない。『枕草子』が、『源氏物語』のごとき長編でなく、短小な章段を集めた随筆の形で作品となったのも、理由のあることであつたと諒解される。(中略)

宮仕え女房集団のリーダー格として振舞つたのが清少納言であつて、その述作は、散文作者の孤独な文章行為の軌跡と見るべきではなくて、仲間のみんなに支えられた文章行為の軌跡と見るべきものだと思われる。『枕草子』開巻第一段の、その書き出しの、

春は曙。

という文からして、そもそも仲間の支えを奥に読みとるべき文だと思われる。この文は、

春は曙をかし。

という文の、述語「をかし」を省略した文、と説かれて来た。清少納言がこの文で表そうとした内容を理解するだけでよいのなら、この見解は正当であろう。けれども、このような構造の文が、いきなり生み出された、その事情までを理解しようとする時は、これはむしろ、

をかしきもの 春は曙。

という、主題の省略と見なおす方がよいように思われる。どちらにしても結果としては同じようなものであるけれども、主題省略文の方は、そういう主題を目下の共通の話題にしている、ということ諒解しあつた、

仲間の間で成り立つ構造の文なのである。(中略)

⑥ みんなの文学への参加の要領をつかんだ時、清少納言から千年隔^{へだた}っている現代のわれわれに、『枕草子』の世界が開放され、千年の時間差が解消するのだと思われる。

(出典 渡辺実^{わたなべみ}「新日本古典文学大系25 枕草子」)

(注) 基調——作品の根底に流れる基本的な考え方や傾向。

諒解——「了解」に同じ。

宮仕え女房——宮中や貴族の屋敷に仕えた女性。

述作——本などを書きあらわすこと。また、その本。

問1 Ⅱの部分A～Eのうち、歴史的かなづかいを含むものはどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

問2 ㊸に入れることばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 除 イ 隠 ウ 隅 エ 陰

問3 「『枕草子』が……となった」とありますが、筆者の考える『枕草子』と『源氏物語』の違いについて整理した次の表のX、

Yに入れるのに適当なことばを、文章中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。

『枕草子』	「をかし」の文学。自分の内にとどめずX
『源氏物語』	「あはれ」の文学。自分の中でしみじみと味わうような、Y的な情緒を基調とする。

問4 「みんなの文学」とありますが、ここで筆者が『枕草子』を「み

んなの文学」と表現した理由を説明したものとして最も適当なのは、

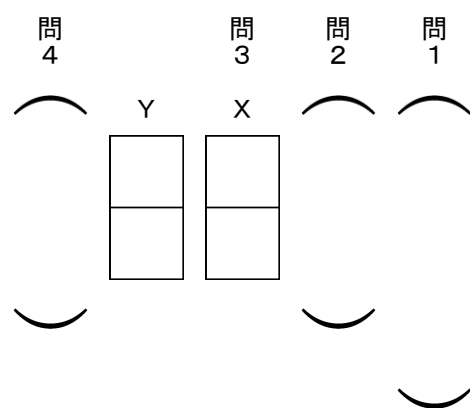
ア、エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 清少納言が仲間の助言を受けて書き記した作品であり、述語さえわかれば、現代でも読者は清少納言たちの宮中での生活を理解できるから。

イ 清少納言が仲間と協力して作り上げた作品であり、述語を補足すれば、現代でも読者は清少納言の心情に寄り添って読むことができるから。

ウ 清少納言が仲間に支えられて完成させた作品で、省略された主題を補えば、現代の読者も清少納言やその仲間たちと感情を共有できるから。

エ 清少納言が仲間を読者とみなして執筆した作品で、主題を理解できれば、現代の読者も清少納言たちと同様に余韻に浸ることができるから。



問 4		問 3	問 2	問 1
ウ	Y 持続	X 解放	エ	A B
⌒			⌒	⌒

問1 A「やうやう」は現代かなづかいでは「ようよう」となり、B「山ぎは」は現代かなづかいでは「山ぎわ」となる。

問2 直前に『をかし』の陽に対して」とあり、空欄より後に『あはれ』に対して陽と評される『をかし』とあることに注目する。両者を対比して説明している。したがって、「陽」に対応する「陰」がふさわしいと判断できる。

問3 Yに入る言葉は、『枕草子』と『源氏物語』の特徴を対比する形で説明している部分に注目して解答する。『あはれ』は一つのことと感じて、そこから思いが他へひろがり、一段深々と感じる時の、持続的な情緒」であり、それと対照的なものとして、『をかし』は、非持続的な感情だと評してよい」と筆者の考えが述べられている。

問4 **ポイント** 筆者は『枕草子』は、「散文作者の孤独な文章行為の軌跡」ではなく「仲間のみんなに支えらえた文章行為の軌跡」と見るべきだと述べている。さらに、「春は曙」は、「をかしきもの 春は曙」という主題を省略した形であると考え、この「そういう主題を目下の共通の話題にしている」ということを「みんな」で諒解した「仲間の間で成り立つ構造の文」だと指摘し、それゆえに「現代のわれわれに、『枕草子』の世界が開放」されていると主張している。こうした内容に合致する選択肢はウである。